**10月のチェコ経済信頼感指数**

チェコ統計局の発表によれば、10月のチェコ経済信頼感指数は、前月比0.3ポイント減の89.8ポイント。前年3月以来はじめて90ポイントを下回り、5ヵ月連続で減少した。しかし、前月比4ポイント減だった9月に比べ、減少幅は大幅に縮小した。経済信頼感は、事業者間、消費者間共に低下しており、消費者間については、2003年1月の調査開始以来、最も低い水準まで深化した。

10月の事業者間経済信頼感指数は、前月比0.2ポイント減の93.4ポイント。消費者間経済信頼感指数は、前月比0.8ポイント減の71.9ポイント。チェコ統計局繁栄調査部のシルヴィエ・ヴィプラシロヴァー氏は、家計の悪化に対する懸念は過去最高を記録し、全般的な経済状況の進展や失業率上昇も大きな懸念材料と述べた。一方で、更なる物価上昇への懸念が薄れたことは、ポジティブに受け止めることが出来ると述べた。

鉱工業の経済信頼感指数は、前月比で2ポイント以上減少し、91.4ポイント。建設業においては、前月比で1ポイント以上の減少となる110.2ポイントとなった。チェコ統計局繁栄調査部総括責任者のイジー・オブスト氏は、今後の進展に対する大きな不安、材料不足、需要の悪化、価格高騰の4つが、今後の鉱工業の経済信頼感の動きに根本的な影響を与えると述べた。

一方で、商業における経済信頼感は4か月ぶりに上昇。前月比6.6ポイント増の99.3ポイントとなり、今年6月の水準に達した。また、サービス業に経済信頼感も前月比で1ポイント弱増加し、92.9ポイントとなった。

前年同月比では、鉱工業を除く全てのカテゴリーで、前年10月を下回った。前年10月の鉱工業経済信頼感指数は、88ポイントを下回っていた。一方で、経済信頼感が最も大きく低下したのは、前年10月には101.3ポイントだった消費者間。前年同月比でおよそ30ポイント減少した。総合的な経済信頼感指数は、前年同期比で6.2ポイント減少した。

チェコ銀行協会アナリストのヤクブ・サイドラー氏は、企業や家庭の経済信頼感は引き続き低下しているが、景気の不透明感を考慮すれば、さほど驚くことではないとし、家庭の経済信頼感の低下は、恐らくウクライナ戦争の更なる激化を反映していると述べた。また、販売価格の伸びに対する企業の期待値は再び上昇。同氏によると、これは、インフレ圧力はまだこれからであること、来年初めもインフレ率は予想より高いままであることを示唆しているという。その為、チェコ中銀の金利はより長い期間、高水準にとどまるだろうと付け加えた。

ジェネラリ・インベストメンツのアナリストであるラドミール・ラーチュ氏は、消費者や企業の経済信頼感調査だけでなく、本年下半期にはチェコ経済の低迷が予想されると加えた。チェコ経済は、第3四半期（7月～9月）と第4四半期（10月～12月）のGDPが以前四半期比で減少する可能性があり、これはテクニカルリセッションを意味するという。

（画像）

情報元／zdroj：

チェコ通信ニュースサイト「チェスケー・ノヴィニ」　2022年10月24日掲載

„Důvěra v českou ekonomiku poprvé od loňského března klesla pod 90 bodů“

(<https://www.ceskenoviny.cz/zpravy/duvera-v-ceskou-ekonomiku-poprve-od-lonskeho-brezna-klesla-pod-90-bodu/2275748>)